



花組のご紹介

園芸別科花卉専攻2年

奥田 薫 樹



花産業必修1000属検定

花組とは園芸別科花卉専攻のことですが、花組が普段どのように学んでいるのかは、意外に知られていないのではないのでしょうか？ そこで少し花組をご紹介しますと思います。

現在の花組は2年生が6名（社会人経験者2名）、1年生が11名（社会人経験者は3名）の総勢17名です。男女比は学年によって偏りがありますが、男性9名、女性8名とほぼ半々。目的も年代も異なる、まさに様々な方が同じ専攻で学んでいます。

まず入学すると、最初に覚えなければならない仕事は灌水です。花組には専用の加温できるビニールハウスが1棟と、無化温のビニールハウスが1棟、1000属検定や研究のために使う、熱帯植物やラン類を管理する機能を持った1000属用温室があります。温室の周囲にもいくつか花壇が



ある日の実習、さくらさくら（ペチュニア）の調整
（左手前が筆者）

あり、これらの植物すべてを花組の全員がローテーションを組み、当番で管理することになっています。

灌水の加減も個人差があります。最初のうちは過湿にしまったり、換気するタイミングに悩んだり、灌水するのも慣れるまでは大変です。しかし、普段目にするの少ない希少な植物を直接触れて管理できるということもあって、意外な植物に関心が深まったりします。そして1000属検定のために植物を観察する機会が増えたりする方も多いようです。ちなみに花組では、この1000属検定を「別科修了までにC級合格」というのが目標になっています。

園芸別科は2年間という短い期間で植物の様々な知識や栽培の技術が学べるコースですので、カリキュラムも実習が中心となっています。週2回フィールド



戸定祭での販売風景

センターでの専攻実習と、週1回松戸での自主作業があります。松戸では用土作りや消毒、ハウス内の張替え等を行います。いずれの実際の作業についても、渡辺均先生が丁寧に指導していただきます。

この実務作業を学ぶプロセスは、初歩的な栽培技術の知識から高度な応用技術まで、幅広く専攻特論で学ぶのと平行し、フィールドセンター苗生産部の年間生産スケジュールに沿って、実際に植物を育てながら栽培技術を習得できるよう、理論と実践のセットになっています。

また教わるだけでなく、11月に行われる戸定祭に向けて話し合い、計画を立て、先生や苗生産部の技官の皆さんにアドバイスを頂きながら栽培し、実際に販売します。自主的に参加する大学祭ですから、ある意味、花組最大のイベントといえるかもしれません。

2年生は戸定祭が終わると修了論文が待っています。明確な実験テーマを決め、その上で実験計画を立てなければなりません。植物によっては実験の機会が2年間では一度きりということもありますから、なにより時期を逃さずに実験する必要があります。

というわけで、花組の2年間は息つく間もなく過ぎていくというのが私の実感です。